

花 橘

縁を大切に、母校は永遠に

教頭・松田 猛

発行日

令和7年3月18日

第13号

発行・編集

三崎高校総務課

三月一日、三年生が巣立っていきました。旅立ちを祝うが如く晴天にも恵まれ、感動的で素晴らしい卒業式でした。赴任して一年目の学校の卒業式で泣いたのは、おそらく初めてです。生徒の三年間を知られば知るほど成長が感じられ、答辞や校歌に感動し、涙も拭かぬままマイクに向かい、閉会のことばを告げました。本当に感動しました。

先日、前任の高校で一年生のときに担任をしたクラスの集まりに呼ばれ、参加しました。四〇人のクラスでしたが、二五人も来ると聞いてびっくりするとともに、クラス幹事に感謝しました。みんな卒業前の大学四年生で、思い出話に花が咲いて夜中まで盛り上がり、本当に楽しいひとときでした。その学年は三年間持ち上がりでしたが、中にはクラス替え(八クラス)により、もしかしたら一年生の最後の日以来、話したこともない生徒もいたかも知れません。それでも当時を思い出しながら、授業や学校行事はもちろん、ホームルームでの他愛もないやりとりなど、いろんな話で笑い合いました。それとともに、「四月から四国電力で働く予定です」「看護師として県病院に決まっています」「春からは中学校の先生です」「大学院に進学します」など、今後の進路の報告もしてくれました。それぞれの成長がとても嬉しく、また頼もしくもありました。

私たち教職員にとって、教え子の成長は嬉しいものです。いろいろ考えたり悩んだりすることでは少しづつ成長し、大きくたくましくなっています。私たちは日々それを感じながら、三月一日にはお互いに涙の卒業式を迎えます。ただ、それはあくまで通過点であり、終着点ではありません。せっかく同じ学校でつながった生徒や教職員、地域の皆さんとの縁を、これからも大切にしていきたいと思えます。そしてそれが同窓会を、また母校を盛り上げていくことにつながっていきます。実は私も母校の同窓会役員を務めており、母校のますますの繁栄を願い、同窓生や先生方とのつながりを大切にしてきました。その甲斐もあって、みんなの思いがつながり、卒業二〇周年を機に開催した学年の同窓会では、恩師の先生方も含め二〇〇人が集まりました(当時一〇クラス)。旧交を温めるとともに、先生方は私たちの成長に目を細めていたことを思い出します。立場が変わって、赴任した学校においても私は、教え子たちに声かけをし、同窓会を盛り上げるよう努めています。その一つに今回の集まりがありました。どうか皆さんも三崎高校の一員として、学校を盛り上げていってください。現在も、そして卒業後も。もちろん私も頑張ります。皆さんとともに。これからも縁を大切に、そして母校は永遠に――。

卒業式

3月1日に卒業式を行いました。保護者の皆様の温かい拍手に迎えられ、堂々とした入場からのスタートでした。在校生代表の漣俊輔君の送辞の中には、先輩達のひたむきな姿に圧倒され、憧れていたことや先輩達が残した伝統やみさこう魂を受け継いでいく決意が込められていました。卒業生代表の藤本祐里香さんは、三崎高校に入学したきっかけから語り、その後様々な行事や部活をやり遂げられた仲間への感謝、高校生活の中で積極性を身につけ、挑戦したい思いが芽生えたこと等を答辞の中で語っていました。涙を流して聞き入っている方が多くいました。高校生活三年間の重みや成長を感じることのできる素晴らしい式となりました。ほとんどの生徒が就職や進学で三崎から離れます。寂しい気持ちもありますが、それ以上に、それぞれのステージでのさらなる成長や活躍が楽しみです。在校生は4月に入学する新入生とともに三崎高校の伝統を引き継いでいきます！

「みさこう さいこう さあいこう」

